

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位(2-0)	必修科目
担当教員			
仲里 和花			

授業のテーマ及び到達目標	到達目標： 1) 異文化を背景に持つ人とのコミュニケーションに影響を与える心理的・社会的要因について学び、異文化コミュニケーション研究への基礎知識を得ることができる。 2) 個人、対人、集団、国家、国際レベルで異文化コミュニケーションの問題を研究するための知見を養うことができる。  テーマ： 言語、会話スタイル、非言語コミュニケーション、心理的要因、価値観、対人関係、組織内、国家レベル、国際場面、教育、言語選択、沖繩
授業計画	<p>第1回 異文化コミュニケーションの基礎概念 異文化コミュニケーションの理論を理解し、異文化コミュニケーション研究の基礎知識を身につけるには、文化とコミュニケーションについての一般的な知識が不可欠である。本講義では、最初に文化の概念、次にコミュニケーションの概念、そして両者の関係について学ぶ。また、異文化コミュニケーションの立場は「自文化と相手の異文化の相違点と共通点を客観的に相互理解し、文化の差を優劣視しない非評価的な文化相対主義による多文化共存の国際化である」（『異文化コミュニケーション』有斐閣）。ここでは、この「相互理解」の実態と困難を見るために、異文化理解政策と相互理解のためのコミュニケーションのモデルを概説する。</p> <p>第2回 言語（異文化コミュニケーションに影響を与える要因1） 本講義では、「言語とは何か」について考える。その際、留学生が外国語として日本語を使用するときの問題についても取り上げながら、異文化コミュニケーションにおける言語の問題を考えていく。</p> <p>第3回 会話スタイル（異文化コミュニケーションに影響を与える要因1） 本講義では、異文化コミュニケーション学における日本人の「会話スタイル」について考える。会話の研究は、言語学、社会学、コミュニケーション学、心理学などの様々な領域で進められているが、それぞれの分野の研究者の目的が異なるため、会話の扱い方や研究方法も異なることが多い。それらを整理するため、各分野における会話の扱い方と、関連する様々な研究を紹介する。</p> <p>第4回 非言語コミュニケーション（異文化コミュニケーションに影響を与える要因2） 本講義では、非言語コミュニケーション研究発展の経緯と、主に日本人を調査対象とした具体的な研究について触れながら、異文化コミュニケーションにおける非言語コミュニケーションの役割について考える。</p> <p>第5回 心理的要因（異文化コミュニケーションに影響を与える要因3） 社会的認知とは、私たちが人々や事象を知覚する際に影響を与える認知構造またはプロセスのことをいう。社会的認知はこれまで心理学の一分野として研究されてきたが、実はコミュニケーションと深いつながりがある。本講義では、コミュニケーションと社会的認知はどのように繋がりがあのか考える。また、ステレオタイプ、カルチャーショックのテーマも扱う。</p> <p>第6回 価値観（異文化コミュニケーションに影響を与える要因4） 本講義では、価値観に関する研究を類型論的アプローチと特性論的アプローチという2つの方法論から整理し、それぞれの代表的な価値観測定尺度と比較文化研究について概観する。そして、そこから明らかになった日本人や日本文化のもつ価値観の特徴について考える。</p> <p>第7回 異文化集団間におけるコミュニケーション理論（異文化コミュニケーション行動のメカニズム1） 本講義では、留学生と日本人の間のコミュニケーションに代表される異文化コミュニケーションを説明する理論、特に現在欧米諸国で主流である7つの理論を紹介する。グディンストによる不安・不確実性統御理論、ティンツミーによるフェイス交渉理論、バーグーンによる期待違反理論、キムによる会話制約理論、タジュフェルとターナーによる社会的アイデンティティ理論、ジャイルズやガロアによるコミュニケーション調整理論、ライアンらによるコミュニケーション苦境モデルを紹介する。</p> <p>第8回 脳と人間のコミュニケーション行動との関係（異文化コミュニケーション行動のメカニズム2） 本講義で紹介する理論は、これまでの理論と異なり、コミュニケーションという人間行動を脳の機能との関連からとらえる。この基盤には、1970年代から活発になってきた認知科学や人工知能の研究などがある。一人人間の脳は人間のコミュニケーション行動にどのような影響を与えるのであるかを考える。</p> <p>第9回 対人関係と異文化コミュニケーション 本講義では、対人関係と異文化コミュニケーションに目を向け、個人が文化的背景の異なる他者と人間関係を構築する際にはどのような問題の遭遇し、またそれらにどのように向き合っていけばよいのかについて考えていきたい。異文化の友人との関係構築、関係構築上の課題、異文化アライアンスの構築、異文化の恋人との関係構築、「思い込み」異文化コミュニケーションなどについて考えていく。</p> <p>第10回 組織内異文化間コミュニケーション 組織コミュニケーションと異文化コミュニケーションというコミュニケーション学の2つの分野を統合して「組織内異文化間コミュニケーション」という。本講義では、組織コミュニケーションとはどのような研究なのか、具体的にはどんなテーマが研究されてきたのかを異文化環境という特殊な状況の中で考え、組織内異文化コミュニケーションの有効な機能のための方策を提示する。</p>

	第11回	国家レベルの異文化コミュニケーション 国家レベルでの異文化接触は大雑把に次の2つの類型に分類できる。1) 異なる文化圏に属する国家が接触する際に起こるもの。これは2つの国家が外交関係を開設・維持することで発生する。2) ある国家とその国内の少数民族または国外の民族が接触する際に起こるものである。これは国家とその民族政策に関わる問題である。本講義では、この国家に関わる異文化接触行動を考える。
	第12回	国際場面での異文化コミュニケーション 本講義では、日本を中心として、国際文化交流がどのようになされたかについて、20世紀を振り返ってみることとする。文化交流を語る場合にも日本を取り巻く政治、経済的環境を無視することはできない。それらを踏まえて解説する。また、国際協力や国際会議におけるコミュニケーションについても扱う。
	第13回	教育と異文化コミュニケーション 異文化コミュニケーションという学問分野の1つの特徴は、社会科学の一分野として人間の行動を解明するために調査・研究するだけでなく、学校の教育現場や企業内研修、コミュニティーの生涯学習などの場での教育にも生かされている点である。本講義では、異文化コミュニケーションの教育や研修（トレーニング）について考える。
	第14回	言語選択と英語 1) 「国際英語」におけるメディアリテラシー教育の実践 2) 異文化間コミュニケーションのための外国語教育－国際英語及び英語支配の視点から
	第15回	沖縄における異文化コミュニケーション 本講義では、国境を越えた移動の結果として沖縄に居住しているエスニック・マイノリティーの人々と沖縄社会との関係性を解明し、またその改善にむけた議論を行う。特に、日系人（ペルー、ブラジル、アルゼンチンなど）、定住外国人（アメリカ、フィリピン、インド、中国）、そしてアメラジアンの人たちが抱える課題を話し合い、将来に向けて、沖縄での多文化共生社会を促進するために、彼らとどのようなネットワークづくりができるかを考える。
授業の概要		異文化コミュニケーション研究に関する基礎的かつ入門的な知見を得ることを目的とする。具体的には、文化背景の異なる人々がコミュニケーションをする時、どのような心理的・社会的要因がコミュニケーションに影響を与えるのか、なぜそのように行動するのか、そのメカニズムは何かを学び、個人、対人、集団、国家、国際レベルで異文化コミュニケーションの問題を研究するための知見を養う。
予習		テキスト・論文を読んでくること。発表の準備をすること。
復習		発表の内容の復習とテキスト・論文を読むこと
テキスト		西田ひろ子『異文化間コミュニケーション入門』（創元社） 他・論文を使用（内容は学生の研究テーマにより変更あり）。
参考書		伊佐雅子監修『多文化社会と異文化コミュニケーション』（三修社） 久米昭元・長谷川典子『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション』（有斐閣） 石井敏・久米昭元（編集）『異文化コミュニケーション事典』（春風社） 石井敏・他『異文化コミュニケーション・ハンドブック』（有斐閣） 安藤由美・鈴木規之・野入直美（編集）『沖縄社会と日系人・外国人・アメラジアン』クバプロ W.B. Gudykunst, Theorizing about Intercultural Communication, Sage
評価方法・評価基準		クラス参加度（授業態度、発言、口頭発表など40%）、期末レポート（60%）
履修上の注意		特になし
オフィスアワー		毎週水曜日（5限目） 仲里研究室（事前にメールでの予約が必要です。）
課題に対するフィードバック方法		口頭発表などのフィードバックは、その都度、授業内で行う。期末レポートは、最終講義終了後、1週間以内に、評価して（採点・評価後）、各自のメールボックスへ返却する。

講義科目名称：英語教授法特論

授業コード：

英文科目名称：Special Studies in English Language Teaching

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位(2-0)	領域コア科目
担当教員			
大城 直人			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 「教室第二言語習得 (Instructed Second Language Acquisition)」の理解を深め、英語の学習及び指導における理論と実践について考究し、効果的な学習法・指導法を模索する。 【到達目標】</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要／英語教育の今日的課題</p> <p>第2回 「教室第二言語習得」とは</p> <p>第3回 第二言語学習者が習得する知識</p> <p>第4回 教室内におけるインタラクション</p> <p>第5回 フォーカス・オン・フォーム</p> <p>第6回 文法の習得</p> <p>第7回 語彙の習得</p> <p>第8回 発音の習得</p> <p>第9回 語用論的知識の習得</p> <p>第10回 学習環境と第二言語習得</p> <p>第11回 学習者の個人差</p> <p>第12回 早期英語教育</p> <p>第13回 アクティブ・ラーニング</p> <p>第14回 インストラクショナル・デザイン</p> <p>第15回 Book Review &amp; Presentation</p> <p>第16回 予備日</p>
授業の概要	<p>「教室第二言語習得 (Instructed Second Language Acquisition)」を理解する上で重要なトピック (明示的／暗黙的学習, インタラクション, フォーカス・オン・フォーム, 語彙・文法・発音の習得, 学習者の個人差など) に焦点を当て議論を行う。また, アクティブ・ラーニングやインストラクショナル・デザインについても理論や概念を取り上げ, より良い授業の在り方を討議する。</p>
予習	<p>テキストの指定された章を読み要約を行い, 議論の論点 (質問事項) をまとめる。</p>
復習	<p>講義内容を踏まえ, 扱ったトピックについて省察し, レポートにまとめる。</p>
テキスト	<p>・ Loewen, S. (2015) Introduction to Instructed Second Language Acquisition, New York, NY: Routledge.</p>
参考書	<p>・ Ellis, R. &amp; Shintani, N. (2014) Exploring Language Pedagogy through Second Language Acquisition Research, New York, NY: Routledge.</p> <p>・ Brown, D. H. (2014) Principles of Language Learning and Teaching (6th ed.), New York, NY: Longman</p> <p>・ Larsen-Freeman, D. &amp; Anderson, M. (2011) Techniques and Principles in Language Teaching (3rd, ed.), Oxford: Oxford University Press</p> <p>・ 村野井仁 (2006) 「第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法」大修館書店</p>
評価方法・評価基準	<p>毎回課されるReading Assignment (30%), 英語教育関連書籍のReview &amp; Presentation (30%), レポート課題 (30%) 及び英語教育学会参加報告 (10%) 等に基づき, 総合的に評価を行う。</p>

履修上の注意	特になし
オフィスアワー	(仮) 毎週**曜日 **限目 大城研究室
課題に対する フィードバック方法	・

講義科目名称：英語教育学特別演習 I

授業コード：

英文科目名称：English Education Thesis I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位(0-2)	修士論文指導
担当教員			
Daniel Broudy			

授業のテーマ及び到達目標	In serving students who have entered the initial stages of thesis research, this course aims to present systematic approaches to thesis planning, research, and design.		
授業計画	第1回	<p>Lecture 1</p> <p>introductions</p> <p>H01 Epistemology (definition)</p> <p>H02 Michael Polanyi's The Tacit Dimension (for reference purposes)</p> <p>H03 Ron Sanchez' "Tacit Knowledge" versus 'Explicit Knowledge' Approaches to Knowledge Management Practice" (for discussion)</p> <p>H O M E W O R K:</p> <p>readings:</p> <p>-Finish Ron Sanchez article</p>	
	第2回	<p>Lecture 2</p> <p>-experiment "Nose Finding" (Test your Tacit Knowledge)</p> <p>discussion of readings</p> <p>-Focus on Tacit Knowledge</p> <p>Ron Sanchez</p> <p>-H04 Christopher Ingraham's "Smile if you want people to think you're smart"</p> <p>H O M E W O R K:</p> <p>readings:</p> <p>-Finish Christopher Ingraham article</p>	
	第3回	<p>Lecture 3</p> <p>-H05 Knowledge Management Exercise</p> <p>discussion of exercise</p> <p>discussion of readings</p> <p>-Focus on Explicit Knowledge</p> <p>Ron Sanchez</p> <p>H O M E W O R K:</p> <p>readings:</p> <p>H06 Alice Sullivan's "Bourdieu and Education: How Useful is Bourdieu's Theory for Researchers?"</p>	
	第4回	<p>Lecture 4</p> <p>H06 Cultural Capital (definition)</p> <p>discussion of readings</p> <p>H07 Cultural Capital Field Study</p> <p>H O M E W O R K:</p> <p>readings:</p> <p>finish Sullivan</p>	
	第5回	<p>Lecture 5</p> <p>-discussion of results of H07 Cultural Capital Field Study</p> <p>-return to discussion of H06 Alice Sullivan's article</p> <p>H O M E W O R K:</p> <p>H010 Vygotsky ? Mind in Society</p>	
	第6回	<p>Lecture 6</p> <p>-return to discussion of H06 Alice Sullivan's article</p> <p>-H08 List of Elites</p> <p>-H09 Standardization Process</p> <p>H O M E W O R K:</p> <p>H010 Vygotsky ? Mind in Society</p>	
	第7回	<p>Lecture 7</p> <p>H011 Sociocultural Theory (definition)</p> <p>discussion of readings</p> <p>H010 Vygotsky ? Mind in Society</p> <p>H012 Student-led Discussions (Guidance)</p> <p>H O M E W O R K:</p> <p>readings:</p> <p>finish Vygotsky</p>	
	第8回	<p>Lecture 8</p> <p>return to discussion of H010 Vygotsky ? Mind in Society</p> <p>finish Vygotsky ? Mind in Society</p> <p>H O M E W O R K:</p> <p>readings:</p> <p>H013 Representation &amp;&amp; Media</p>	
	第9回	<p>Lecture 9</p> <p>H014 Representation (in Media) (definition)</p> <p>H013 Stuart Hall's Representation &amp;&amp; Media</p> <p>H O M E W O R K:</p>	

	<p>readings: finish Stuart Hall</p> <p>第10回 Lecture 10 return to discussion of H013 Stuart Hall' s Representation &amp; Media</p> <p>HOMEWORK: prepare for student-led discussions</p> <p>第11回 Dialogues 1 Student-led discussions for topics chosen in Weeks 1-2</p> <p>第12回 Dialogues 2 Student-led discussions for topics chosen in Weeks 3-4</p> <p>第13回 Dialogues 3 Student-led discussions for topics chosen in Weeks 4-5</p> <p>第14回 Dialogues 4 Student-led discussions for topics chosen in Weeks 6-7</p> <p>第15回 Dialogues 5 Student-led discussions for topics chosen in Weeks 8-10</p>
授業の概要	This course is a second-year core seminar that introduces research students to the systematic exploration of a chosen topic. Discussions include generating and organizing ideas, finalizing a researchable topic, reviewing literature, formulating research questions, claims, proposals, predictions, theses and hypotheses, exploring ethical implications of human research, thinking critically, and sourcing research materials. This course integrate the four major communication skills of reading, writing, speaking and listening.
予習	Students can prepare for each class by referring to the guidance offered for readings after HW
復習	Students are expected to review all readings and discussions taken up during each class period.
テキスト	Course materials/readings are supplied by the professor
参考書	Students can locate full copies of text excerpts in the library.
評価方法・評価基準	授業への参加 20%, 宿題 10%, 発表50%, 授業への定期的参加20% Students receive credit for participating in, leading discussions, and producing an annotated bibliography at the end of the semester.
履修上の注意	特になし
オフィスアワー	(仮) 毎週**曜日 **限目 Broudy研究室
課題に対するフィードバック方法	・

講義科目名称：英語教育学特別演習Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：English Education Thesis Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位(0-2)	修士論文指導
担当教員			
Daniel Broudy			

授業のテーマ及び到達目標	In serving students who have reached the final stages of graduate studies, this course aims to present systematic approaches to thesis production and publication.		
授業計画	第1回	Theories of Language L1 Development - 1 Discussions George Lakoff, Women, Fire and Dangerous Things HOMEWORK: George Lakoff, Metaphors We Live By Noam Chomsky, selected essays	
	第2回	Theories of Language L1 Development - 2 Discussions George Lakoff, Metaphor We Live By Noam Chomsky, selected essays HOMEWORK: Stephen Krashen, selected essays <a href="http://www.sdkrashen.com/">http://www.sdkrashen.com/</a>	
	第3回	Theories of Language L2 Development - 1 Discussions Krashen <a href="http://www.sdkrashen.com/content/articles/2016_the_potential_of_technology_in_language_acquisition.pdf">http://www.sdkrashen.com/content/articles/2016_the_potential_of_technology_in_language_acquisition.pdf</a> <a href="http://www.sdkrashen.com/content/articles/2005_junk_food_is_bad_for_you.pdf">http://www.sdkrashen.com/content/articles/2005_junk_food_is_bad_for_you.pdf</a> HOMEWORK: <a href="http://www.sdkrashen.com/content/articles/1965_sipay_prenatal_instruction.pdf">http://www.sdkrashen.com/content/articles/1965_sipay_prenatal_instruction.pdf</a>	
	第4回	Theories of Language L2 Development - 2 Discussions Sipay <a href="http://www.sdkrashen.com/content/articles/1965_sipay_prenatal_instruction.pdf">http://www.sdkrashen.com/content/articles/1965_sipay_prenatal_instruction.pdf</a> HOMEWORK: Krashen - Input Hypothesis <a href="http://www.sdkrashen.com/content/articles/1989_we_acquire_vocabulary_and_spelling_by_reading.pdf">http://www.sdkrashen.com/content/articles/1989_we_acquire_vocabulary_and_spelling_by_reading.pdf</a>	
	第5回	Theories of Language L2 Development - 3 Discussions Krashen - Input Hypothesis <a href="http://www.sdkrashen.com/content/articles/1989_we_acquire_vocabulary_and_spelling_by_reading.pdf">http://www.sdkrashen.com/content/articles/1989_we_acquire_vocabulary_and_spelling_by_reading.pdf</a> HOMEWORK: Krahen - Comprehension Hypothesis <a href="http://www.sdkrashen.com/content/articles/2004_applying_the_comprehension_hypothesis_krashen.pdf">http://www.sdkrashen.com/content/articles/2004_applying_the_comprehension_hypothesis_krashen.pdf</a>	
	第6回	Theories and Practices of Oral Assessment - 1 Discussions Deborah Cameron, Verbal Hygiene HOMEWORK: Dwight Bolinger, Language the Loaded Weapon	
	第7回	Theories and Practices of Oral Assessment - 2 Discussions Dwight Bolinger, Language the Loaded Weapon HOMEWORK: Suresh Canagarajah, Resisting Linguistic Imperialism	
	第8回	Theories and Practices of Oral Assessment - 3 Discussions Suresh Canagarajah, Resisting Linguistic Imperialism HOMEWORK: Bernard Spolsky, Language Policy	
	第9回	Theories and Practices of Oral Assessment - 4 Discussions Bernard Spolsky, Language Policy HOMEWORK: James Crawford, At War with Diversity	
	第10回	Theories and Practices of Oral Assessment - 5 Discussions James Crawford, At War with Diversity HOMEWORK: Prepare for student-led discussions	
	第11回	Dialogues 1	

	<p>Student-led discussions Choose a topic to present and discuss from Weeks 1-2</p> <p>第1 2回 Dialogues 2 Student-led discussions Choose a topic to present and discuss from Weeks 3-4</p> <p>第1 3回 Dialogues 3 Student-led discussions Choose a topic to present and discuss from Weeks 5-6</p> <p>第1 4回 Dialogues 4 Student-led discussions Choose a topic to present and discuss from Weeks 7-8</p> <p>第1 5回 Dialogues 5 Student-led discussions Choose a topic to present and discuss from Weeks 9-10</p>
授業の概要	This course second-year core seminar that continues discussions of preliminary research methods, deductive and inductive approaches, definitions of key concepts and words, theoretical frameworks, questionnaires, observations, and interviews. Students receive credit for participating in, leading discussions, submitting a completed thesis outline, and presenting the results of the course literature review at the end of the semester.
予習	Students can pre pare for each class by referring to the guidance offered for readings after HW
復習	Students are expected to review all readings and discussions taken up during each class period.
テキスト	Course materials/readings are supplied by the professor
参考書	Students can locate full copies of all excerpts from texts in the library.
評価方法・評価基準	授業への参加 20%, 宿題 10%, 発表50%, 授業への定期的参加20% Students receive credit for participating in, leading discussions, and producing an annotated bibliography at the end of the semester.
履修上の注意	特になし
オフィスアワー	(仮) 毎週**曜日 **限目 Broudy研究室
課題に対するフィードバック方法	・

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位(2-0)	必修科目
担当教員			
仲里 和花			

授業のテーマ及び到達目標	<p>1) 異文化コミュニケーション学特論Iで学んだ基礎を踏まえて、異文化コミュニケーション研究への理解を深めることができる。</p> <p>2) 理論面では、受講生の発表と討議形式をとり、異文化コミュニケーションに関する既存の代表的理論の考察と批評をすることができる。</p> <p>3) 異文化摩擦の事例研究を通してそれらの要因を考察することで、自国の文化と相手の異文化に対する相互理解を深めることができる。</p> <p>テーマ： メッセージ中心の理論、対人関係中心の理論、集団・組織中心の理論、異文化接触中心の議論、日本在住外国人、帰国日本人、異文化コミュニケーション、海外留学、海外赴任、海外旅行、国際交渉など。</p>
授業計画	<p>第1回 理論 メッセージ中心の理論（線形系コミュニケーションモデル、意味協応調整理論） 本講義で取り扱う「メッセージ」中心のコミュニケーション理論とは、メッセージを中心としないコミュニケーション理論との対比のもとに考えられる。ここでは、メッセージ理論とは、レトリック理論やメッセージの「意味」を理論の中核に据えるコミュニケーション理論のことであり、それを中核としない理論とは社会学・社会心理学的な社会中心の相互作用理論である。</p> <p>第2回 理論 対人関係中心の理論（帰属理論、間人主義理論、自己開示） 2人が直接に対面して意味を伝え合う対人コミュニケーションの前提として対人関係がある。本講義では、対人関係についての基礎概念を紹介し、理論化の試みを概観する。</p> <p>第3回 理論 集団・組織中心の理論（集団主義・個人主義、アイデンティティ理論、シンボリック相互作用理論など） 「集団」や「組織」は主に社会学や社会心理学で研究されてきたが、1970年代以降、そこで抜け落とされがちなメンバー間の実際のコミュニケーションに、スピーチ・コミュニケーション研究者が注意を払い始めた。本講義では、社会学や社会心理学的な研究に対比させて、コミュニケーション学的な意味での集団・組織コミュニケーション理論を解説する。</p> <p>第4回 理論 異文化接触中心の理論（不確実性減少理論、異文化適応理論） 19世紀末に人類学者のエドワード・タイラーが文化の定義をして以来、文化は多くの人類学者、心理学者、社会学者などによって様々に使われてきた。多くの定義に共通してみられるのは、文化が、人間が生後獲得するものという「学習性」と一定の地域あるいは集団で共通してみられるという「共有性」を備えているということである。このような文化の概念を踏まえながら、異文化接触中心の理論を概観していく。</p> <p>第5回 理論 コミュニケーション能力（コンピテンス、コミュニケーション調整理論、非言語コミュニケーション、異文化リテラシーなど） 理論には、現象を説明したり、未来に起こりうることを予測したり、そして現象を希望する方向へと導くために行動をコントロールしたり、という機能が備わっている。これまでに対人コミュニケーション、特に二人の間の関係を説明、予測、コントロールするために数多くの理論が提唱されてきた。それをすべて解説することはできないが、本講義では、私たちのコミュニケーション能力を高められるよう、そのうち基本的なものを紹介する。</p> <p>第6回 理論 偏見、イメージ、ステレオタイプ 本講義では、異文化の人々とのコミュニケーションにおいて大きな障壁となる「ステレオタイプ」「偏見」「差別」を取り上げ、それらにはどのような特徴があるのか、そしてなぜ生まれてしまうのか、そしてこの3つの障壁を取り除くために私たちにできることはあるのかについて、様々な理論を通して考えてみたい。</p> <p>第7回 理論 非言語コミュニケーション 空間・時間・言語と「場」の理論（ゲブサーの意識構造理論） 異文化コミュニケーションは文化融合である。本講義では、その基本的なプロセスを見ていく。融合のプロセスとは、いわば新たな「場」、ひいては「故郷」の形成といえる。そこには、文化を構成する基本的要素である空間・時間の認識及び言語が複雑にからんでくる。本講義では、空間・時間・言語と「場」の理論を考えていく。</p> <p>第8回 実践面 日本在住外国人 日本には多くの外国人が暮らしている。例えば、外資系企業の経営者や従業員、日本人を妻や夫とする外国人、中国からの帰国者、留学生、アジアや中近東からの労働者、南米からの日系労働者、さらにはベトナムやインドシナからの難民などがいる。そのほかに日本の農村、過疎地に結婚のために中国、フィリピン、スリランカ、タイなどのアジア諸国から渡ってくる花嫁もいれば、闇ルートで不法に連れてこられ、風俗産業に従事する子ども、女性もいる。このような日本在住外国人が直面する異文化コミュニケーションの問題を事例を通して考える。</p> <p>第9回 実践面 帰国日本人 最近では何らかの理由で海外に住むことになり、一定期間海外に暮らした後で日本に帰国する日本人も増えている。海外赴任といった場合、数年で帰国といった場合から、10年、20年と長期間にわたっての海外生活など、滞在期間は個人の事情によって様々である。共通しているのは、日</p>

	<p>本に帰国した後、母国日本において大なり小なり様々な問題に遭遇し、困惑するというのである。本講義では、帰国日本人の抱える異文化コミュニケーションの問題を事例を通して見ていく。</p> <p>第10回 実践面 共文化コミュニケーション 共文化（サブカルチャー）とは、例えば、居住地域、年代、職業、ジェンダーなどの差異や、障害の有無など、「日本文化」という1つの文化の中に存在しているが、独自の考え方や行動様式を備えているグループが持っているものである。この共文化の違いによっても、国による差異と同様、様々な問題が起きている。このような問題を事例を通して考える。</p> <p>第11回 実践面 海外留学 海外留学に出かける日本人の数はここ数年、毎年7～8万人で推移している。その約6割がアメリカで、そのほかでは中国、イギリス、オーストラリア、ドイツ、フランス、カナダなどが多く、近年は韓国やニュージーランド、それに東南アジア各国にも出かけるようになってきている。留学生活に切っても切れないのは、不適応、つまりカルチャーショックの問題である。このような海外留学生が抱える問題について見ていく。</p> <p>第12回 実践面 海外赴任 戦後の驚異的な経済的復興を成し遂げた日本は1970年代になると本格的に海外に進出するようになった。最初は東南アジアに、続いて欧米の先進国に、商社、銀行、証券会社、各メーカーなどが進出した。1990年代には日本の企業活動は、地球全域に広がった。現在は、企業の規模を問わず、それぞれのニーズに合わせて海外に派遣される社員も増加し、海外赴任はいつ自分にまわってきてもおかしくない時代となった。このような海外赴任に伴う異文化コミュニケーションの問題について考える。</p> <p>第13回 実践面 海外旅行 近年、海外旅行はけっして珍しいことではなくなった。旅行に出かける年齢層も多様になり、旅行会社は大学生をはじめ、20～30歳代の独身者、サラリーマン、主婦、定年退職者などありとあらゆる人々を対象に、雑誌やテレビ、新聞あるいはインターネットなどを駆使して、魅力的な海外旅行のプログラムを提供している。しかし、海外旅行は短期であるが異文化コミュニケーションの体験である。文化移動することによって人はこれまでになかった経験をし、時にはその人の後の人生にも大きな影響を与えることもある。</p> <p>第14回 実践面 国際交渉 交渉とは「利害関係のある2つ（もしくはそれ以上）のグループ（あるいは個人）が、双方の利益を最大限に、損失を最小限にするためのコミュニケーション・プロセス」（御手洗、2003）である。現代では個人の生活レベルでも社会関係でも利害が衝突し、関係者双方にとって望ましい方向に向けて解決法を模索する必要性がしばしば生じている。私たちは何らかの形で、もはや交渉とは無関係に生きていくことは不可能な状態となっている。もちろん、国家としての日本もそうである。本講義では、国家間での交渉や外交について考える。</p> <p>第15回 実践面 国際協力 国際協力とは、社会や経済の開発、平和問題、人命や人権など人道上の問題、環境問題などに対して、国を超えて行われる援助活動のことである。援助活動の多くは国家間によるものであるが、近年では非政府組織（NGO）が行う場合もかなり増えている。本講義では、国際協力の場面で見られる異文化コミュニケーションの問題を事例を通して見ていく。</p>
授業の概要	異文化コミュニケーションの理論と実践を学ぶ。テーマとして、メッセージ関係、対人関係、集団・組織、異文化接触中心の理論、コミュニケーション能力の理論などを扱う。実践面では、地域、民族、言語・非言語、ジェンダー、世代など広い意味での文化的背景の異なる人々が接触し、交流・交渉する際に起きるギャップ、すれ違いなどの結果起きた異文化摩擦の事例研究、討論などの方法で進めてゆく。具体的には、海外留学、海外赴任、帰国後再適応、在日外国人、国内・海外での摩擦、国際交流・協力などを取り上げる。
予習	テキスト・論文を読み、発表の準備をしておくこと。
復習	テキスト・論文を再度読み、内容の理解をすること。
テキスト	石井敏・他『異文化コミュニケーションの理論』有斐閣 久米昭元・長谷川典子『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション』（有斐閣） 他・論文（内容は学生の研究テーマにより変更あり）
参考書	池田理知子・E. M. クレーマー著『異文化コミュニケーション・入門』有斐閣 古田暁・他『異文化コミュニケーション・キーワード』（有斐閣） 石井敏・久米昭元（編集）『異文化コミュニケーション事典』春風社 Kim & Gudykunst [Theories in Intercultural Communication ](Sage) William B. Gudykunst [Theorizing about Intercultural Communication] (Sage)
評価方法・評価基準	クラス参加度（授業態度、発言、口頭発表など40%）、期末レポート（60%）
履修上の注意	特になし
オフィスアワー	毎週水曜日（5限目） 仲里研究室（事前にメールでの予約が必要です。）
課題に対するフィードバック方法	口頭発表の評価は、その都度、授業内でフィードバックを行う。期末レポートは、最終講義終了後、1週間以内に、評価して（採点・評価後）、各自のメールボックスに返却する。

講義科目名称：地域研究特論

授業コード：

英文科目名称：Okinawan Studies

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1～2年	2単位(2-0)	共通関連科目
担当教員			
Anthony P. Jenkins			

授業のテーマ及び到達目標	This course is taught in English with the aim of improving the students' ability to absorb academic information in that language. It also aims to present a great deal of information on a narrow but formative period in recent Okinawan history.		
授業計画	第1回	Introduction: Okinawan Studies; outline of Okinawan history to WWII	
	第2回	Battle of Okinawa, the US experience and the Okinawan experience documentary source: the Okinawan internment camp at Shimabuku.	
	第3回	Post-war Okinawa, the US occupation and its governmental institutions; documentary source: Ordinance 13 establishing the GRI	
	第4回	Post-war Okinawa, Okinawan and Ryukyuan governmental institutions; documentary sources: various memoranda between the two sides of government	
	第5回	Post-war Okinawa: the land seizures; documentary source: petition from land owners at Bolo and related documents	
	第6回	Post-war Okinawa: crimes and incidents, 1945-72 documentary source: statements on petitions relating to two fatal road accidents	
	第7回	Post-war Okinawa: notable Americans (Deputy Governors and High Commissioners case studies: Eagles, Sheetz and Caraway	
	第8回	Post-war Okinawa: notable Okinawans (chiji and chief executives, Senaga Kamejiro and Inamine Ichiro); documentary sources: Yara Chobyoy and the flag-raising campaign.	
	第9回	Post-war Okinawa: aspects of the reversion movement	
	第10回	Post-reversion, the six chiji, their policies and achievements	
	第11回	Education, 1879 to 21st century documentary sources: scholarship withdrawal from Communist sympathisers	
	第12回	American attitudes to Okinawa documentary source: New York Times and Time article 1952	
	第13回	Brief outlines of Okinawan cultural achievements 1 (lacquer, ceramics, textiles, Ryukyu glass, and the Arts and Crafts movement in Okinawa)	
	第14回	Brief outlines of Okinawan cultural achievements 2 (karate, eisa, dance and kumiodori)	
	第15回	Sekai isan: World Heritage sites in Okinawa	
	第16回	定期試験	
授業の概要	The primary focuses of this course are a detailed study of post-war Okinawa and the reading and use of primary sources in interpreting that era. Thereafter, there will be a brief, general survey of some of the remarkable cultural creativity which has defined Ryukyu and Okinawa in a worldwide context. The approach to those themes will include a range of challenges to accepted views and myths which are current in Okinawan society.		
予習	Please read the sections on Meiji and pre-war Okinawa in Kerr' s book cited below.		
復習	Please read the sections on Meiji and pre-war Okinawa in Kerr' s book cited below.		
テキスト	Lecture texts, and documentary sources beyond those outlined above will be distributed at the beginning of the course.		

参考書	G. H. Kerr, Okinawa: The History of an Island People (Tuttle, 1958) and a list of some 20 other important English-language publications will be distributed in the first class.
評価方法・評価基準	Preparation for class 15%, regular attendance in class 15%, participation in discussion 20%, essay of approved theme 50%
履修上の注意	特になし
オフィスアワー	(仮) 授業終了後に質問を受け付けます。
課題に対するフィードバック方法	・

講義科目名称：社会言語学特論

授業コード：

英文科目名称：Special Studies in Sociolinguistics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位(2-0)	共通関連科目
担当教員			
新垣 友子			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 異なる文化的・言語的背景を持つ人々、また母語を同じにする人々の間においても、年齢・性別・出身地社会階層等の違いにより意思疎通に齟齬が生じることがある。ことばと社会との相関関係を学び、円滑なコミュニケーションに何が必要かを学ぶ。また、言語の選択、言語権についても学び、言語使用にみられる不平等性が社会的にどのような意味をもつのか考える。</p> <p>【到達目標】 社会言語学の各分野における基本的な概念や理論を十分理解し、それらの知識を用いて、現代社会における課題を批判的に分析・考察できるようになる。</p>
--------------	--

授業計画	<p>第1回 Introduction: What do sociolinguistics study? What is a sociolinguist? Why do we say the same thing in different ways? What are the different ways we say things? Social factors, dimensions and explanations</p> <p>第2回 Language Choice in multilingual communities Choosing your variety or code, Diglossia, Code-switching or code-mixing</p> <p>第3回 Language maintenance and shift Language shift in different communities, Language death and language loss, Factors contributing to language shift, How can a minority language be maintained? Language revival</p> <p>第4回 Linguistic varieties and multilingual nations Vernacular languages, Standard languages, Lingua francas, Pidgins and creoles</p> <p>第5回 National languages and language planning National and official languages, Planning for a national official language, Developing a standard variety in Norway, The linguist's role in language planning</p> <p>第6回 Regional and social dialects Regional variation, Social variation, Social dialects</p> <p>第7回 Gender and age Gender-exclusive speech differences, Gender-preferential speech features, Gender and social class, Explanations of women's linguistic behavior, Age-graded features of speech, Age and social dialect data</p> <p>第8回 Ethnicity and social networks, Language Change Ethnicity, Social networks, variation and change, How do changes spread? How do we study language change? Reasons for language change</p> <p>第9回 Style, context and register Addressee as an influence on style, Accommodation theory, Context, style, and class, Style in non-Western societies, Register</p> <p>第10回 Speech functions, politeness and cross-cultural communication The function of speech, Politeness and address forms, Linguistic politeness in different cultures</p> <p>第11回 Gender, politeness and stereotypes Women's language and confidence, Interaction, Gossip, Sexist language</p> <p>第12回 Language, cognition and culture Language and perception, Whorf, Linguistic categories and culture, discourse patterns and culture, Language, social class, and cognition</p> <p>第13回 Analyzing discourse Pragmatics and politeness theory, Ethnography of speaking, interactional sociolinguistics, conversation analysis (CA), Critical discourse analysis (CDA)</p> <p>第14回 Attitudes and applications Attitudes to language, Sociolinguistics and education, Sociolinguistics and forensic linguistics</p> <p>第15回 Conclusion &amp; Review Sociolinguistics competence, Dimensions of sociolinguistic analysis, sociolinguistic universals</p> <p>第16回 定期試験</p>
------	---

授業の概要	<p>地域・階級による言語変種、ジェンダー・年齢によるバリエーションなど、言葉がどのように用いられ、時とともに、どのように多様化するのか、その過程の中で新たな働きや役割、形態を獲得していくのかを学ぶ。また、多様化を生む要因や言語の死、言語計画や言語復興の実例・理論に関しても学び、言語使用にみられる不平等性が社会的にどのような意味をもつのか考える。</p>
-------	--

予習	<p>各授業に出る前に論文を精読する。割り当てられた日の口頭レポートに必要な発表資料を準備する。</p>
----	--

復習	講師の説明やクラス・ディスカッションを経て得られた知識を論文要旨として自分なりにまとめる。
テキスト	An Introduction to Sociolinguistics. (5th edition): Longman.
参考書	Suzanne Romaine (1994) Language in Society: Oxford University Press.
評価方法・評価基準	読解レポート：20 points      口頭発表：20 points 学期末ペーパー：40 points      授業活動への貢献度：20 points      合計：100points
履修上の注意	1. 授業活動への貢献度は、授業中の発言を通してどれだけクラス全体の知識の向上に貢献したかで主に判断する。 2. リーディング・アサインメントは指定された講義の日までには読み、授業中は発表とクラス・ディスカッションに当てること。 3. 受け身の授業構成ではありません。ディスカッションでは積極的に発言すること。
オフィスアワー	(仮) 毎週木曜日 1, 2 限目 (後期) 新垣友子研究室
課題に対するフィードバック方法	読解レポートは授業内に返却し、学期末ペーパーは各メールボックスに返却。

講義科目名称：国際理解教育特論

授業コード：

英文科目名称：Global Issues in Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位(2-0)	共通関連科目
担当教員			
新垣 誠			

授業のテーマ及び到達目標	This course is designed to help students learn about other cultures and global issues and how to introduce these cultures and issues to others. Considerable attention will be given to global issues in the teaching of English in Okinawa and Japan.
授業計画	<p>第1回 Registration and Course Introduction</p> <p>第2回 Defining Key Terms</p> <p>第3回 Language in Global Society</p> <p>第4回 Language, Culture and Identity</p> <p>第5回 English as an International Language (EIL)</p> <p>第6回 English Education in the World</p> <p>第7回 EIL in Japan</p> <p>第8回 EIL in Okinawa</p> <p>第9回 Teaching EIL</p> <p>第10回 Global Issues and Education</p> <p>第11回 Global Issues and EIL</p> <p>第12回 Public Discourse and Social Inequity</p> <p>第13回 Teaching Culture in the English Classroom</p> <p>第14回 Education and the Reproduction of Inequality</p> <p>第15回 Comments on Research Papers</p>
授業の概要	Students should note that this class will be conducted primarily in English but can also be given in Japanese. They should also note that the readings will largely be in English and the research paper should be submitted in English. In addition to lectures, readings, and discussions, the class will utilize individual research and presentations to give students practical experience in understanding and helping others understand global issues.
予習	毎講義で提示される内容を各自調べ、ディスカッションへ備える。
復習	講義内容について不明な点は各自で調べ、次回の講義で確認すること。
テキスト	Raymond Williams selected readings, Paulo Freire selected readings, James Gee selected readings
参考書	担当者作成の資料を適宜配布
評価方法・評価基準	class participation, homework assignments and presentations (50%) course research paper (50%)
履修上の注意	特になし
オフィスアワー	(仮) 毎週**曜日 **限目 新垣研究室
課題に対するフィードバック方法	.

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位(2-0)	共通関連科目
担当教員			
浜川 仁			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 18世紀後半から19世紀前半にかけてのイギリス経済のインドや中国への進出が、近代のヒューマニズムをめぐる文学表現の中にどのように表れたのか検証する。</p> <p>【到達目標】 近現代初期のイギリス経済のアジア進出と文学表現の関連性を、我が国日本、沖縄との関連でよく理解できるようになる。18世紀後半のプレロマン期、ロマン主義文学、ビクトリア朝の文学のさまざまな英語表現の多くを、近代初期のアジア経済の中でよく理解できるようになる。</p>
授業計画	<p>第1回 イギリス文学概観 ロマン主義文学が生まれた時代背景について経済史と文学史の中から概観する。</p> <p>第2回 ロマン主義文学（コールリッジ） コールリッジの Kubla Khan やThe Rime of the Ancient Mariner から、アジアや海外貿易のイメージを読み取る。</p> <p>第3回 ロマン主義文学（ド・クインシー）—その① ド・クインシーの Confessions of an English Opium Eater から、ワーズワースとの関係でド・クインシーの立ち位置を確認する。自然VS人口、感性VSドラッグの二項対立について考える。</p> <p>第4回 ロマン主義文学（ド・クインシー）—その② ド・クインシーの Confessions of an English Opium Eater から、ロマン主義文学の標榜する「自然」のイデオロギー性を逆にあぶり出す。</p> <p>第5回 ロマン主義文学（ド・クインシー）—その③ ド・クインシーの Confessions of an English Opium Eater から、同時代のコロニアリズムに満ちた東洋イメージを解析する。</p> <p>第6回 ビクトリア朝文学（シャーロット・ブロンテ）—その② ブロンテの Jane Eyre に表れる時代背景と植民地をめぐるイギリスの貿易システムを理解する。</p> <p>第7回 ビクトリア朝文学（シャーロット・ブロンテ）—その③ ブロンテの Jane Eyre に登場するさまざまなキャラクター設定のありかたからイギリスの植民地経済の現実をあぶり出す。とくに、狂女バーサ・メイスンに焦点をあてて論じる。</p> <p>第8回 ビクトリア朝文学（シャーロット・ブロンテ）—その④ ひきつづき、バーサ・メイスンのキャラクター設定の分析を通して、ブロンテの Jane Eyre のイデオロギー性をあぶりだす。</p> <p>第9回 ビクトリア朝文学（シャーロット・ブロンテ）—その⑤ ブロンテの Jane Eyre のイデオロギー性を踏まえうえて、ジェーン・エアのキャラクターが人間性をめぐるいかなる近代的な問いを担っているのかを考察する。</p> <p>第10回 ロマン主義文学期の旅行記（バジル・ホール）—その① バジル・ホールの『朝鮮・琉球航海記』がどのように受け入れられたのか、同時代のロマン主義文学の文脈と人脈から読んでいく。</p> <p>第11回 ロマン主義文学期の旅行記（バジル・ホール）—その② バジル・ホールの『朝鮮・琉球航海記』に描かれるイギリス人の琉球訪問経緯を、琉球側はどのようにとらえていたのか王府の文書を中心に読み解くことで、文化間のコンタクトゾーンでいかなるイメージのかけ違いが起こるのか考察する。</p> <p>第12回 ロマン主義文学期の旅行記（バジル・ホール）—その③ 18世紀後半から19世紀前半にかけてのカントン貿易システムとイギリスの三角貿易のなりたちについて概観する。</p> <p>第13回 ロマン主義文学期の旅行記（バジル・ホール）—その④ バジル・ホールの『朝鮮・琉球航海記』をはじめ、同時代の旅行記に描かれる大國中国のイメージを解析し、当時の政治と経済の現実と重ね合わせて理解する。</p> <p>第14回 ロマン主義文学期の旅行記（バジル・ホール）—その⑤ バジル・ホールやJ・マクロードが旅行記を通して提示した琉球イメージと、同時代の人々が描いた中国のイメージがいかに対象的であるのか分析し、その理由を経済的・政治的な時代背景とロマン主義文学との関係で解き明かす。</p> <p>第15回 まとめ、レポート（小論文、エッセイ）の提出</p>
授業の概要	コロニアリズムとアヘン貿易をひとつの切り口として、ロマン主義時代からビクトリア朝にかけてのヒューマニズムあふれる文学作品や旅行記（コールリッジ、ド・クインシー、バジル・ホールなど）を、イギリスの展開したアジア経済戦略の文脈で読み解いていく。学期末には、作家、作品、時代背景などについてのレポート（小論文、エッセイ）を各自でひとつ完成させる。
予習	該当する資料にじゅうぶん目を通しておく。
復習	小論文と期末テストに備え、講義内容の整理につとめる。
テキスト	Bronte, Charlotte. Jane Eyre. New York: Penguin Books. Austen, Jane. Pride and Prejudice. New York: Penguin Books. De Quincey, Thomas. Confessions of an English Opium Eater. New York: Penguin Books.

	Hall, Basil. Account of a Voyage of Discovery to the West Coast of Corea, and the Great Loo-Choo Island. London: John Murray, 1818.
参考書	『ユリイカ』 9月号 第34巻第11号 青土社 2002年9月 英文 J. サザランド 『イギリス小説の謎』 編注者 藤原浩一、高谷修 英宝社 2004年 バジル・ホール 『朝鮮・琉球航海記』 春名徹訳・解説 岩波書店 2009年、他
評価方法・評価基準	授業内ディスカッション 50 % レポート (小論文、エッセイ) 50%  *授業日数の3分の1を超えて欠席しないこと。 *3回の遅刻は1回の欠席と見なす。
履修上の注意	特になし
オフィスアワー	(仮) 毎週**曜日 **限目 浜川研究室
課題に対するフィードバック方法	授業内のディスカッションで取り上げ、コメントやアドバイスとともに返却する。

講義科目名称 : Theories & Practices in Western Rhetoric 授業コード :

英文科目名称 : Theories & Practices in Western Rhetoric

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位(2-0)	共通科目
担当教員			
Daniel Broudy			

授業のテーマ及び到達目標	The primary aim of this course is to develop in students a critical awareness of rhetoric in modern discourse, its uses in political, public and private institutions and its connections to power and the methods of persuasion. Successful students in this course will acquire a level of English that enables them to teach junior and senior high school students in the English language. This class will help students achieve a B2 level of CEFR. Successful students will also be able to offer grade-appropriate feedback and assessment for students across primary and secondary schooling. Students are required to develop a flexible ability to organize an interactive classroom where their students actively participate and critically reflect on new knowledge.		
授業計画	第1回	<p>Introductions / Critique Research Topics</p> <p>introductions</p> <p>discussion of research topics</p> <p>H O M E W O R K:</p> <p>readings:</p> <p>-S.A., Definition, page 131</p>	
	第2回	<p>Lecture 1</p> <p>discussion of readings</p> <p>-H.O. White' s Democracy</p> <p>-launch Definitions.ppt</p> <p>H O M E W O R K:</p> <p>writing:</p> <p>-draft definition essay of key terms for the next meeting</p>	
	第3回	<p>Workshop 1</p> <p>workshop 1st essay (Definition)</p> <p>H O M E W O R K:</p> <p>finish revising</p>	
	第4回	<p>Workshop 2</p> <p>finish workshop 1st essay</p> <p>H O M E W O R K:</p> <p>readings:</p> <p>-S.A., Defending a Claim, page 157</p>	
	第5回	<p>Lecture 2</p> <p>discussion of reading</p> <p>-H.O. Dr. Dino</p> <p>-launch Claims.ppt</p> <p>H O M E W O R K:</p> <p>Brainstorming exercise, develop a dialogue with a co-worker, friend or significant other in order to generate ideas about the claim you have determined you will make. Jot down all relevant ideas and attempt to give some rough order to them so as to develop a general outline of your paper.</p>	
	第6回	<p>Workshop 3</p> <p>workshop (Research Project Outlines)</p> <p>readings:</p> <p>-S.A., Appeals to Needs, pages 227-9; Appeals to Tradition, page 346; Appeals to Values, pages 230-1</p>	
	第7回	<p>Lecture 3</p> <p>-launch Appeals.ppt</p> <p>H O M E W O R K:</p> <p>writing:</p> <p>Develop a rough sketch of the approach you will take in how you will appeal to an audience hostile to or skeptical of your argument. Consider the various appeals they make about maintaining the status quo and the kinds of appeals that you can make that can undermine what you may see as their fallacious thinking. This section of the overall research paper is known as the "conditions of rebuttal."</p>	
	第8回	<p>Workshop 4</p> <p>workshop 2nd essay (Appeals)</p> <p>H O M E W O R K:</p> <p>readings:</p> <p>-S.A., Evaluation of Evidence, pages 220-7</p>	
	第9回	<p>Lecture 4</p> <p>discussion of readings</p> <p>-launch Evidenceevaluation.ppt</p> <p>H O M E W O R K:</p> <p>readings:</p> <p>-S.A., Analyzing Warrants, pages 273-83</p>	
	第10回	<p>Lecture 5</p> <p>discussion of readings</p>	

	<p>-launch Warrants.ppt H O M E W O R K: writing: Develop an essay that serves as a warrant for your principal argument for workshops on Days 13 &amp; 14</p> <p>第11回 Documentary documentary Orwell Rolls in His Grave (Bring some popcorn ...) H O M E W O R K: writing: Answer critical questions. Be prepared to discuss them next week.</p> <p>第12回 Critical Reflections discussions of the major themes and arguments in the documentary H O M E W O R K: -H.O. Guidance for Presentations</p> <p>第13回 Workshop 5 workshop 3rd essay (Warrants)</p> <p>第14回 Workshop 6 finish workshop 3rd essay</p> <p>第15回 Presentation 1 presentations</p> <p>第16回 Presentation 2 finish presentations</p>
授業の概要	This course examines theories of rhetoric and how they apply to discourses in various fields of public, academic and political inquiry. This course also examines rhetoric and its relationship to power in society. Coursework includes close readings of texts, speech transcripts, and a documentary film from which will emerge a student presentation. This course helps students understand various details of information provided in a range of media and genres. It helps students understand various details in auditory media to improve listening, helps students develop writing on various topics and themes in English, and encourages students to speak on various topics and themes in English. This course, thus, integrates the four major communication skills of reading, writing, speaking and listening.
予習	Students can prepare for each class by referring to the guidance offered for readings after HW
復習	Students are expected to review all readings and discussions taken up during each class period.
テキスト	The Structure of Argument. (Annette Rottenberg & Donna Haisty Winchell, 2009) Boston: Bedford St. Martins (ISBN 13: 978-0-312-48048-6) (This text book can also be checked out of the library.)
参考書	Website: <a href="http://americanrhetoric.com/">http://americanrhetoric.com/</a>
評価方法・評価基準	Essays40% Participation20% Presentation.40%
履修上の注意	特になし
オフィスアワー	(仮) 毎週**曜日 **限目 Broudy研究室
課題に対するフィードバック方法	・

講義科目名称：英語教育学特論 I

授業コード：

英文科目名称：Special Studies in English Education I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位(2-0)	領域コア科目(英語教育領域)
担当教員			
Christopher Valvona			

授業のテーマ及び到達目標	The goal of this course is for students to become familiar with core theories, principles, and approaches related to English language education, with a view to applying them in future, more practice-based classes. Students will read original papers and/or books, critically evaluate the material, and take part in class discussions and presentations.		
授業計画	第1回	Introduction to English as a Foreign Language The course begins with an introduction to the topic of ELT, including defining the various terms used to describe English Language Teaching (TESOL, TEFL, ELT etc) and how they differ in nuance. Other core terms will also be presented and explained, as well as an overview of how we describe language. The history of the topic will be explained, and the overview for the semester presented.	
	第2回	Theories of Second Language Acquisition (SLA) The main theories of SLA will be covered, together with explanation of how those theories have changed over the years.	
	第3回	Issues in Second Language Acquisition: learner differences, autonomy Having understood the main theories of SLA, some of the questions/issues involved in it are covered, such as in what ways learner differ, whether learner difference really exists and matters in the context of teaching, and the extent to which students should be taught vs should learn for themselves.	
	第4回	Issues in Second Language Acquisition: motivation and attitude Motivation to learn anything is a huge influencing factor in how successful we will be, as is the positivity/negativity that we bring to this learning. Starting with the basics (eg intrinsic vs extrinsic motivation), these questions will be investigated.	
	第5回	Models of Language Instruction (1) traditional theories and approaches Many ways to actually teach language have been proposed and developed over the years. We begin by looking at some earlier models, such as the grammar-translation method	
	第6回	Models of Language Instruction (2) communicative, Task-based language teaching (TBLT), Content and Language Integrated learning (CLIL) The topic moves onto more recent approaches to teaching, especially methods that fall under the umbrella of CLT (communicative language teaching).	
	第7回	Models of Language Instruction (3) alternative approaches The topic ends by looking at some of the non-traditional methods developed over the years, such as humanistic methods (TPR (total physical response) and the silent way for example.	
	第8回	Language Teaching Materials (1) development Having looked at methods and approaches, the focus then shifts to the materials used to actually teach, starting with how materials (textbooks etc.) are developed.	
	第9回	Language Teaching Materials (2) types of materials, authentic vs pedagogic The topic then moves on to considering and evaluating the different types of materials, including looking at the distinction between authentic materials and materials developed specifically for the classroom	
	第10回	Language Teaching Materials (3) implementation Finally, the topic moves on to looking at how materials are actually used in the classroom. This will include looking at future directions of materials (digital etc.)	
	第11回	Principles of developing grammar and vocabulary skills This will look at practical methods of actually teaching students how to understand and use grammar, as well as effective ways of developing their active and passive vocabularies.	
	第12回	Principles of developing pronunciation Sometimes overlooked in language programmes, the explicit teaching of pronunciation (benefits and methods) will be covered.	
	第13回	Principles of developing speaking and listening skills The topic will then look at ways of helping students improve their speaking and listening skills, including which approaches match different levels, cultural backgrounds, motivations etc.	
	第14回	Principles of developing reading and writing skills Reading and writing skills will be considered, looking at different ways of getting students to develop both their active and passive skills.	
	第15回	Current trends in SLA research The course ends with a comprehensive look at what is happening in SLA research, positing directions for the future and areas ripe for further study.	
授業の概要	This course introduces the basic concepts of second language acquisition and teaching English as a foreign language. It also looks, from a theoretical perspective, at issues that are relevant to the modern language classroom, such as methods of instruction, the development and use of appropriate teaching materials, and differences among language learners, and ways of teaching specific skills.		

	Students will also consider current trends in research relating to SLA and English language teaching.
予習	Students can prepare for each class by referring to the guidance offered for pre-readings of upcoming topics and further readings of topics covered
復習	Students are expected to review all readings and discussions taken up during each class period.
テキスト	There is no textbook but a reading list is provided
参考書	Refer to Harmer, J. 2015. The Practice of English Language Teaching (5th ed.). Pearson Education
評価方法・評価基準	Students will give regular presentations about the topics covered in the class, and will write a final report about one topic of their choosing. Evaluation is as follows: In-class participation: 30% Presentations (research and preparation): 30% Final report: 40%
履修上の注意	特になし
オフィスアワー	There are no specifically assigned office hours. However, you can speak to the teacher directly before and after the class, make an appointment to see the teacher when he/she is free, and communicate by email.
課題に対するフィードバック方法	Ask the teacher directly in class or send an email.

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位(2-0)	領域コア科目(英語教育領域)
担当教員			
Christopher Valvona			

授業のテーマ及び到達目標	This class will build on the work and knowledge presented and investigated in英語教育学特論Ⅰ. The goal of this course is for students to further develop their knowledge of core theories, principles, and approaches related to English language education. The sound theoretical knowledge developed in this class and the preceding 英語教育学特論Ⅰ will put students in a good position to practically apply that knowledge in the modern classroom. Students will deepen their knowledge not only through reading original papers and/or books and critically evaluating the material, but also by learning how to search out relevant and valuable material by themselves. Students will also take part in class discussions and presentations.		
授業計画	第1回	Overview/review of SLA research history and theories The course begins with a review of the topics covered in Course 1, in particular looking at SLA history, theories, and future directions, which underpin the course.	
	第2回	Comparison of first and second language acquisition Understanding of SLA is aided by comprehension of theories of and research into how we learn our first language, so these will be presented and discussed.	
	第3回	Language testing: methods Assessment is an important part of language teaching. To begin, we will consider the many different approaches and methods of language testing and evaluation.	
	第4回	Language testing: current tests and issues Continuing the topic of assessment, we will look at some of the prevailing methods and tests in use today, as well as some of the problems associated with the different modern methods of evaluation.	
	第5回	Technology in language teaching and learning Technology has changed the way many people approach language teaching, so we will look at ways technology can be used, how to introduce it in the classroom, resistance to technology, and how it may develop in the future.	
	第6回	Language teaching in the classroom: error correction There are different ways to tell a student that they have made a mistake, and each method has potential benefits, disadvantages, implications and consequences. Methods will be introduced and discussion of their effectiveness will ensue.	
	第7回	Classroom management Every classroom situation is different, so teachers need to understand methods and implications of managing differing sizes, motivation levels etc of students.	
	第8回	Mid-term review and assignment The contents covered so far will be reviewed, and an assignment will be chosen by the students from a list of possible topics.	
	第9回	The language education context in Japan: MEXT curriculum and guidelines Most of what has been covered so far is influenced by the guidelines of MEXT, so these will be considered in detail, including how they affect the Japanese language classroom.	
	第10回	Issues in language education in Japan and Okinawa Given its geographical location, the US bases, and the many students looking to work in the tourism industry, Okinawa finds itself in a unique position in Japan, and so the language education should reflect that, or those charged with teaching language should at least be aware of it and how it may affect their teaching.	
	第11回	Cultural elements in language learning The context in which we teach should change the way we teach; here, we will look at the various cultural elements that can affect the classroom where we teach, and what we should do to adapt to that cultural context.	
	第12回	Syllabus and curriculum design Creating a syllabus is the blueprint for the course, so implications in what you include need to be considered. Furthermore, developing a wider curriculum is a large undertaking, and many aspects (the students, the teachers, the institution etc.) must be thought out carefully before embarking on a path of curricular innovation. These will be considered and discussed.	
	第13回	Cultural consideration and sensitivity in approaches and curriculum design Just as culture affects the way we teach an individual class, so culture is an important aspect when we look at curriculum design - especially when many people in vested in that innovation are not originally from the country in question. Therefore, cultural sensitivity is a very important factor to look into and consider deeply.	
	第14回	Glocalization and language teaching Language teaching is a global phenomenon on, but each context necessarily takes and adapts for its own contexts the materials, frameworks, methodologies, curricula etc designed for global audiences. Implications of this localized form of globalization (glocalization) will be considered and discussed.	

	<p>第15回 Final review and assignment</p> <p>After reviewing all of the topics, a list of possible topics will be provided for the final assignment. Students will pick one and work on it with guidance from the teacher.</p>
授業の概要	<p>This course looks more deeply at the concepts and history of second language acquisition and TEFL/TESOL. It looks more closely, from a theoretical perspective, at issues that are relevant to the modern language classroom, such as testing, technology, error correction, and classroom management. It also looks at cultural considerations of English language teaching, focusing on the Japanese context in particular, and investigating cultural implications of curriculum development and language teaching.</p>
予習	<p>Students can prepare for each class by referring to the guidance offered for pre-readings of upcoming topics and further readings of topics covered.</p>
復習	<p>Students are expected to review all readings and discussions taken up during each class period.</p>
テキスト	<p>There is no textbook but a reading list is provided</p>
参考書	<p>Harmer, J. 2015. The Practice of English Language Teaching (5th ed.). Pearson Education</p>
評価方法・評価基準	<p>Students will give regular presentations about the topics covered in the class, and will write a final report about one topic of their choosing. Evaluation is as follows: In-class participation: 30% Presentations (research and preparation): 30% Final report: 40%</p>
履修上の注意	<p>特になし</p>
オフィスアワー	<p>There are no specifically assigned office hours. However, you can speak to the teacher directly before and after the class, make an appointment to see the teacher when he/she is free, and communicate by email.</p>
課題に対するフィードバック方法	<p>Ask the teacher directly in class or send an email.</p>